

## タンジュン・アライ村のアスベスト屋根サンプル採取状況について

坂井美穂

## 第1 タンジュン・アライ村の概要

1994年10月4日、タンジュン・アライ (Tanjung Alai) 村の313世帯は旧村から約4キロメートルの距離にある現在のコト・タラゴ (koto Talago) 地域に移転した。当初インドネシア政府が提案した移転地は、シベルアンの南方ないしムアラ・マハット・バルのいずれかの地域であった。しかし村民は、自分たちの民族集団 (ピトパン族) のウラヤット地であった現在地への移転を政府に強く要請し、現在地への移転が実現した。

移転地で与えられた6×6メートルの全ての住宅は、木製の壁、セメントの床、アスベストの屋根であった。彼らがこのような状況を忍従したのは、最初に移転した隣村プロウ・ガダン村の住民たちが、国軍第132大隊によって移転強制される状況を目撃していたからである。これらの事実はJBICによる援助効果促進調査 (SAPS) 報告書の付属書3章 (丁B第14号証) に記述されている。

## 第2 アスベスト屋根サンプル採取の状況について

(1) 2008年9月6日に坂井美穂がタンジュン・アライ村を訪問し、同村のアリ・アムラン (ALI AMRAN) 氏の案内で (a) 農園事務所、(b) 礼拝所、(c) アブドウル・ムアス氏宅の3箇所からアスベストのサンプルを採取した。それらは別紙：写真撮影報告書の通りである。

(2) それらのサンプルの中から、最も保存状態の良かった農園事務所の屋根から採取したものを「大阪環境保全株式会社」(計量証明事業登録：大阪府第10066号、作業環境測定機関：大阪府27-65、所在地：大阪市住吉区我孫子東2丁目6番17号) に試験依託した。

# 写真撮影報告書

撮影日：2008年9月6日(土曜日)

撮影場所：タンジュン・アライ村

(desa Tanjung Alai)

(a) 農園事務所

(b) 同村内の礼拝所(Mushola)

(c) アブドゥル・ムアス(ABDUL MUAS)氏宅

アスベスト・サンプル採取者：

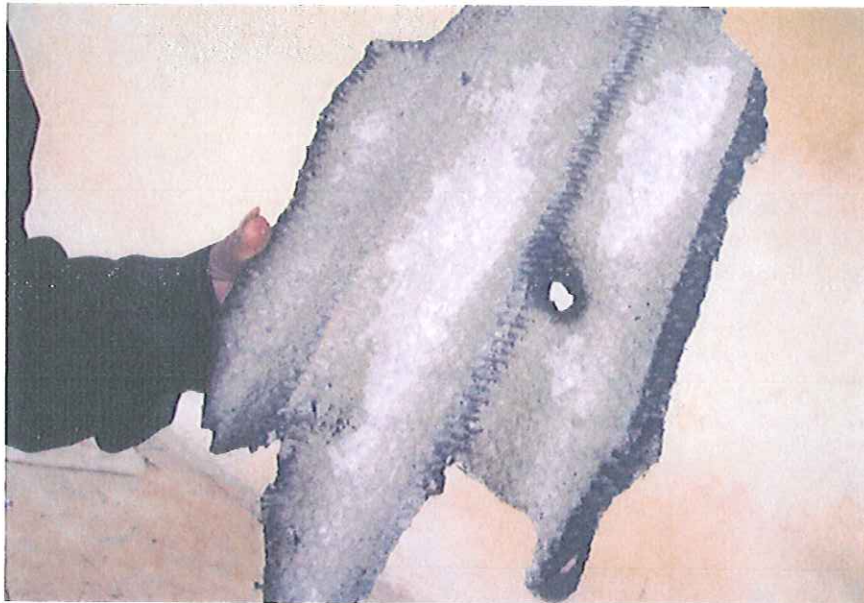
アリ・アムラン(ALI AMRAN)

撮影者：坂井美穂

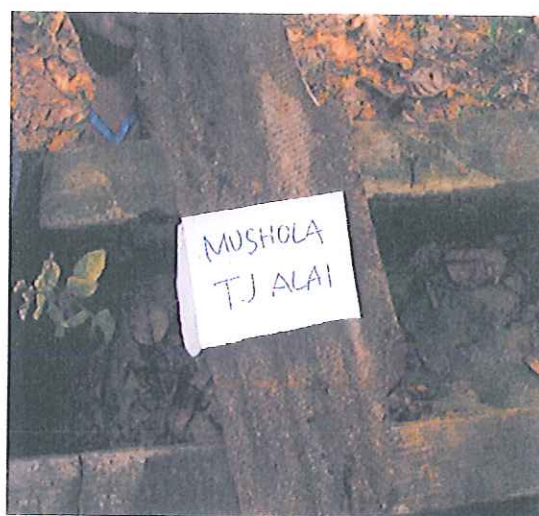
上：農園事務所外観  
下：屋根の破損の状況



上:採取したサンプル  
下:タイトルをつけ保管



上左: 礼拝所外観 上右: 礼拝所資材置き場  
下左: 資材置き場にあった屋根の破片  
下右: タイトルをつけ採取



上左:ムアス氏宅外観  
下左:採取した屋根の破片



上右:ムアス氏宅屋根  
下右:タイトルをつけ保管

